

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6034003号
(P6034003)

(45) 発行日 平成28年11月30日 (2016. 11. 30)

(24) 登録日 平成28年11月4日 (2016. 11. 4)

(51) Int. Cl. F I
A 4 5 C 3/00 (2006. 01) A 4 5 C 3/00 U
A 4 5 C 13/00 (2006. 01) A 4 5 C 13/00 S

請求項の数 4 (全 7 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2011-37354 (P2011-37354) (22) 出願日 平成23年2月23日 (2011. 2. 23) (65) 公開番号 特開2012-171673 (P2012-171673A) (43) 公開日 平成24年9月10日 (2012. 9. 10) 審査請求日 平成26年2月7日 (2014. 2. 7)</p>	<p>(73) 特許権者 506150630 利根川 大地 埼玉県鴻巣市北中野 1 2 2 番地 (74) 代理人 100113169 弁理士 今岡 憲 (72) 発明者 利根川 大地 埼玉県鴻巣市北中野 1 2 2 番地 審査官 藤井 眞吾</p>
--	--

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 端部固定式の吊下げ用袋

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

伸縮性を備えた可撓性材料で形成されるとともに、筒体(10)を扁平に折り畳んだ状態で上下縁を固定した形態をなし、露出外面にファスナー(B)で開閉可能に閉塞した出入れ口(11)を備えた袋本体(A)と、袋本体(A)の上縁及び下縁にそれぞれ設けられた一対の環状体(C)とを備える吊下げ用袋において、

上記一対の環状体(C)は、それぞれが袋以外の被固定箇所への固定手段であり、上記ファスナー(B)を、袋本体(A)の露出外面の上下方向中間部に縦長に設けて、その上下を袋本体(A)の縦方向の伸縮が良好な良好伸縮領域(x)として構成し、

ファスナー(B)の上方の良好伸縮領域(x)をファスナー(B)の下方の良好伸縮領域(x)より短くしてなることを特徴とした、端部固定式の吊下げ用袋。

10

【請求項 2】

環状体(C)の一部を、環状体(C)の閉環状態を維持すべく付勢され且つ支点を中心に開環状態への回動が可能な回動部(31)に構成した請求項1に記載の端部固定式の吊下げ用袋。

【請求項 3】

袋本体(A)は、扁平にした筒体(10)を、正面にファスナー(B)が位置する如くジグザグに折り畳み、該折り畳み状態で上下端縁を固定した縦長矩形状をなす請求項1又は請求項2に記載の端部固定式の吊下げ用袋。

【請求項 4】

20

袋本体（A）は、扁平にした筒体（10）を、正面にファスナー（B）が位置する如く両側を重ね折りに折り畳み、該折り畳み状態で上下端縁を固定した縦長矩形状をなす請求項1又は請求項2に記載の端部固定式の吊下げ用袋。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は袋に関し、詳しくは、ボトル等を収容して運搬するのに便利な端部固定式の吊下げ用袋に関する。

【背景技術】

【0002】

ボトル等を収容して運搬したり吊り下げたりするための袋として、頂部に紐やフックを設けて持ちやすくしたもの（例えば、特許文献1参照）、或いは袋の側面とカバンの間に係合手段を設けて着脱可能に装着したもの（例えば、特許文献2参照）等が知られている。

【0003】

前者は、口部に紐を挿通した袋本体内にボトルを収容した後、紐を絞って口部を閉塞して吊り下げ或いは運搬するものであり、或いは、袋本体の片方から、中央にボトルネックを挿入する長穴を穿設した舌片を突設し、折り返した舌片の長孔にボトルネックを挿通するとともに、舌片の端部と袋本体の対向側外面とを面ファスナーで係合し、更にボトルネックにフック付きの固定ホルダを取付けて吊り下げ、或いは運搬をするものである。

【0004】

後者は、袋の側面に係合突起或いは該係合突起が着脱可能な係合凹部を設け、カバンの側面に上記係合突起或いは係合凹部の一方を設けて、ボトルを収容した袋を上記係合手段によりカバン側面に固定し、運搬が可能に構成したものである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開平11-059738号公報

【特許文献2】特開2002-095513号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

上記従来の袋の場合、前者はボトルの着脱は容易であるが、ベルトやリック等に設けられたフックに紐を引っ掛けての持ち運びの際にはボトル入りの袋がブラブラして歩きずらかったり、ぶら下げたボトルが衝撃で凹む虞さえ生じる。

【0007】

後者の場合にはブラブラする虞はないものの、係合手段が特定されていて使用が著しく制限される。即ち、その特定のカバンがなければ持ち運びができない。

【0008】

本発明は上記した点に鑑みてなされたものであり、ボトル等の収容物が運搬に当たりブラブラすることなく固定できるとともに、収容物の出し入れも容易に行え、しかも収容する収容物の大きさを比較的広い範囲で選択することができ、更に、不使用時にはコンパクトな状態に維持できる端部固定式の吊下げ用袋を提案する。

【課題を解決するための手段】

【0009】

第1の手段として、以下の通り構成した。即ち、伸縮性を備えた可撓性材料で形成されるとともに、筒体10を扁平に折り畳んだ状態で上下縁を固定した形態をなし、露出外面にファスナーBで開閉可能に閉塞した出し入れ口11を備えた袋本体Aと、袋本体Aの上縁及び下縁にそれぞれ設けられた一对の環状体Cとを備える吊下げ用袋において、

上記一对の環状体Cは、それぞれが袋以外の被固定箇所への固定手段であり、

10

20

30

40

50

上記ファスナー B を、袋本体 A の露出外面の上下方向中間部に縦長に設けて、その上下を袋本体 A の縦方向の伸縮が良好な良好伸縮領域 x として構成し、
ファスナー B の上方の良好伸縮領域 x をファスナー B の下方の良好伸縮領域 x より短くしてなる。

【 0 0 1 0 】

第 2 の手段として、以下の通り構成した。即ち、前記第 1 の手段に於いて、環状体 C の一部を、環状体 C の閉環状態を維持すべく付勢され且つ支点を中心に開環状態への回動が可能な回動部 31 に構成した。

【 0 0 1 2 】

第 3 の手段として、以下の通り構成した。即ち、前記第 1 の手段又は第 2 の手段に於いて、袋本体 A は、扁平にした筒体 10 を、正面にファスナー B が位置する如くジグザグに折り畳み、該折り畳み状態で上下端縁を固定した縦長矩形形状をなす。

【 0 0 1 3 】

第 4 の手段として、以下の通り構成した。即ち、前記第 1 の手段又は第 2 の手段に於いて、袋本体 A は、扁平にした筒体 10 を、正面にファスナー B が位置する如く両側を重ね折りに折り畳み、該折り畳み状態で上下端縁を固定した縦長矩形形状をなす。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 4 】

本発明によれば、袋本体 A の上縁及び下縁にそれぞれ一对の環状体 C を設けているので、各環状体 C をそれぞれフック等に引っ掛けることで、ブラブラせずに収容物が入った袋本体 A を固定することができ、例えば、フック等が多数設けられているリュック等に対して好適であり、複数を同時に固定することも可能である。しかも、袋本体 A は伸縮性を備えているため、二つのフック間の距離が実質的な二つの環状体 C の距離より大きくても充分対応できる利点もある。

【 0 0 1 5 】

また、袋本体 A は伸縮性を備えた可撓性材料で形成されるとともに、筒体 10 を扁平に折り畳んだ状態で上下縁を固定した形態をなしているため、不使用時には極めてコンパクトな状態で保管、持ち運び等が可能であり、一方、使用時には収容物の大きさに応じて大きく容量を増やすことができる特徴がある。また、出し入れ口 11 の大きさが小さくても、収容物が入る大きささえあれば袋本体 A が伸縮して容易に収容物を収納することができる利点もある。

【 0 0 1 6 】

環状体 C の一部を、環状体 C の閉環状態を維持すべく付勢され且つ支点を中心に開環状態への回動が可能な回動部 31 に構成した場合には、袋 1 の固定対象物にフック状のものがなく、例えばベルト通しの如き閉環状の固定部しかない場合でも、回動部 31 を回動させて環状体 C を閉環状の固定部に取り付けることができ、その操作は極めて容易であり、また、固定対象物の範囲を大幅に広げることができる。

【 0 0 1 7 】

ファスナー B を、袋本体 A の露出外面の上下方向中間部に縦長に設けて、その上下を袋本体 A の縦方向の伸縮が良好な良好伸縮領域 x として構成した場合には、ファスナー B の存在で比較的長手方向の伸縮に制限を受け易い袋本体 A が、その長手方向の伸縮を充分に行うことができる。この場合は出し入れ口 11 の大きさが収容物が入る大きさ（例えばボトルの場合ボトルの径が入る大きさ）さえあれば、容易な出し入れができるため、特に縦長な収容物に対して袋本体 A が縦方向に延びた状態での収納が行い易く、縦長な収容物に対して好適である。

【 0 0 1 8 】

袋本体 A は、扁平にした筒体 10 を、正面にファスナー B が位置する如くジグザグに折り畳み、該折り畳み状態で上下端縁を固定した縦長矩形形状をなす場合には、横幅の狭い扁平な折り畳みが可能であり、全体をよりコンパクトにすることが可能であるとともに、収容物の大きさに応じて容量をより大きく増加できるという利点がある。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 9 】

袋本体 A は、扁平にした筒体 10 を、正面にファスナー B が位置する如く両側を重ね折りに折り畳み、該折り畳み状態で上下端縁を固定した縦長矩形形状をなす場合も、上記の場合と同様に、横幅の狭い扁平な折り畳みが可能であり、全体をよりコンパクトにすることが可能であるとともに、収容物の大きさに応じて容量をより大きく増加できるという利点がある。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 0 】

【 図 1 】 端部固定式の袋の正面図である。(実施例 1)

【 図 2 】 図 1 の袋の折り畳み形態を説明する要部説明図である。(実施例 1)

10

【 図 3 】 図 1 の袋の折り畳み形態を説明する説明図である。(実施例 1)

【 図 4 】 端部固定式の袋の折り畳み形態を説明する要部説明図である。(実施例 2)

【 図 5 】 図 4 の袋の環状体の要部説明図である。(実施例 3)

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 2 1 】

以下、本発明の形態を図面を参照して説明する。

【 0 0 2 2 】

図 1 は 端部固定式の袋 1 の一例を示すもので、この端部固定式の袋 1 は、袋本体 A と、ファスナー B と、一对の環状体 C とを備えている。

【 0 0 2 3 】

20

袋本体 A は、合成樹脂、エラストマー等の伸縮性を備えた可撓性材料で形成されたもので、筒体 10 を扁平に折り畳んだ状態で上下縁を固定した形態をなしている。また、露出外面には出し入れ口 11 を開口している。

【 0 0 2 4 】

袋本体 A は、図 2 に示す如く、扁平にした筒体 10 を、正面に出し入れ口 11 が位置する如くジグザグに折り畳み、図 3 に示す如くぴったりとした折り畳み状態で上下縁を固定した縦長矩形形状をなしている。上下縁の固定は逢着であっても、接着であっても、溶着であっても、これらの併用であっても良く、特に限定されるものではない。尚、折り畳み形態は本例のものに限らず、例えば、図 4 に示す如く、扁平にした筒体 10 を、正面に出し入れ口 11 が位置する如く両側を重ね折りに折り畳み、該折り畳み状態で上下端縁を固定した縦長矩形形状をなす如く構成しても良く、その他の折り畳み状態であっても良く、要は扁平に折り畳まれ、収容物を入れた場合に内部が拡開可能な状態であれば良い。

30

【 0 0 2 5 】

ファスナー B は、出し入れ口 11 を閉塞して開閉可能に設けたものであり、一般的に知られるものが使用可能である。ファスナー B の材質としては、合成樹脂、金属、木等種々採用でき、特に限定されない。

【 0 0 2 6 】

袋本体 A のファスナー B 設置位置、ひいては出し入れ口 11 の設置位置は袋本体 A の露出外面であれば特に限定はないが、袋本体 A に対して縦長に装着しても、袋本体 A に対して横長に装着しても、或いは斜めに装着することも可能である。本例では袋本体 A の露出外面の上下方向中間部に縦長に設けている。そして、ファスナー B の上下部分を袋本体 A の縦方向の伸縮が良好な良好伸縮領域 x として構成している。良好伸縮領域 x は、ファスナー B の存在で比較的長手方向の伸縮に制限を受け易い袋本体 A を、長手方向に充分伸縮することができる如くするために設けたものであり、その長さは袋 1 全体の大きさ等により適宜選択すれば良い。また、強度を最重要視する場合には、ファスナー B の上方の良好伸縮領域 x をファスナー B の下方の良好伸縮領域 x より短くすると良い。

40

【 0 0 2 7 】

環状体 C は、合成樹脂、金属、木等の材質で形成されたもので、基部を袋本体 A の上下端部にそれぞれ固定して装着されている。図示例では、両端部を袋本体 A の前後面に固定した装着片 12 により形成される横長な装着孔 13 に環状体 C の基部を挿通して遊嵌し、袋本

50

体 A に対して前後方向の回動或いは左右方向の僅かな移動が可能に装着している。尚、環状体 C は図示例では完全な環状をなしているが、それ自体は開環状であって、袋本体 A や装着片 12 等とで全体を環状にする場合であっても良い。

【 0 0 2 8 】

上記の如く構成された袋 1 を使用する場合には、例えば、ファスナー B をあけて出し入れ口 11 からペットボトルを挿入した後再びファスナー B を閉じ、リュックに設けられたフック間にそれぞれ環状体 C を係合させ、ペットボトルを収納した袋 1 をリュック外面に弱く圧接する張った状態でリュックに固定することができる。

【 0 0 2 9 】

図 5 は形態の相違する環状体 C の例を示すもので、環状体 C を、基部 30 と回動部 31 とで構成している。基部 30 は、回動部 31 と略同様長さの部分を欠落した開環形態をなし、一方、回動部 31 は、開環した基部 30 の一端部に一端部を軸支して基部 30 の開環部分を連続させる長さを有している。回動部 31 の自由端は係合凹部 32 を備え、該係合凹部 32 に基部 30 の他端部に設けた係合突部 33 が係合してそれ以上の外方への回動を防止しており、また、回動部 31 はトーシヨンバネ 34 により外方へ付勢されており、即ち、閉環状態を維持すべく付勢されている。この様な環状体 C を備えている場合には、使用時に例えば指で回動部 31 を付勢に抗して回動させて固定位置に簡単に環状体 C を装着することができる。その他は図 1 の例と同様であるため説明を省略する。

【 符号の説明 】

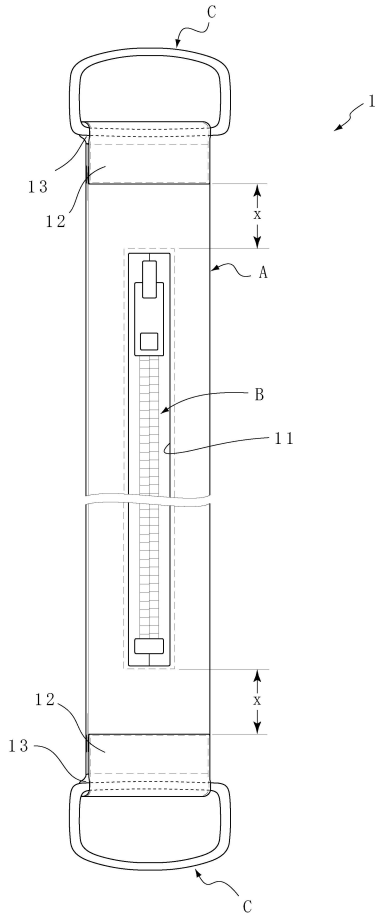
【 0 0 3 0 】

- 1 : 袋
- A : 袋本体
- 10... 筒体、11... 出し入れ口、12... 装着片、13... 装着孔、x ... 良好伸縮領域
- B : ファスナー
- C : 環状体
- 30... 基部、31... 回動部、32... 係合凹部、33... 係合突部、34... トーシヨンバネ

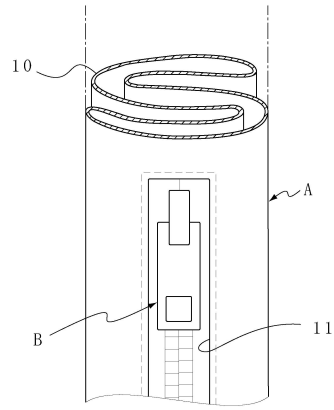
10

20

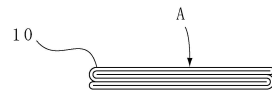
【図1】



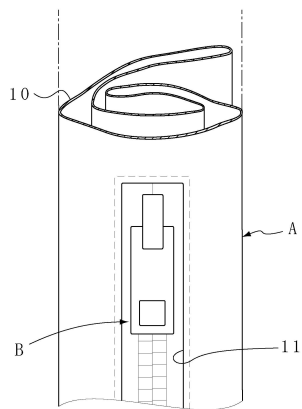
【図2】



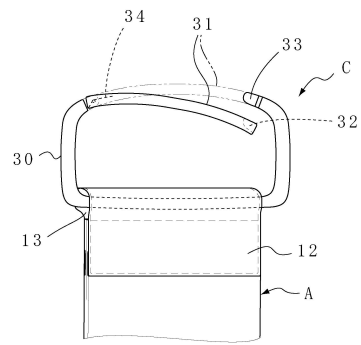
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭52-025110(JP,U)
特表2010-517724(JP,A)
特開2001-061533(JP,A)
実開昭62-045066(JP,U)
実開平01-099229(JP,U)
実開平05-018316(JP,U)
特開2010-172380(JP,A)
登録実用新案第3117501(JP,U)
実開昭51-129103(JP,U)
実公昭44-010058(JP,Y1)
実開平07-024119(JP,U)
特開2012-101902(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A45C 3/00 - 3/14
A45C 13/00